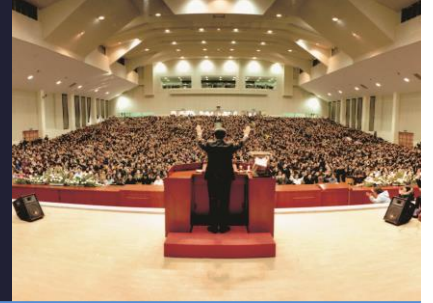


恵みと真理のニュース



2019年02月の四次 恵みと真理教会

韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net



【証】

ヨホワラパ、ヨホワイレの神様を 賛美します

私は宗教を信じない家庭で生まれ育ちました。イエス様に関心もなかったし、情報もなくて、たまに異端の弊害が放送されると全ての教会を悪口をしたりしました。30歳ごろに旦那を紹介してもらって人が真実に見えて一生を生きることを決心しました。旦那は私に他の事はいらぬが代わりに結婚するなら一緒に教会に行くことを約束してこの約束だけを必ず守ってくださいとしました。愛に目がくらんだ私は約束をして結婚しました。

新婚所帯道具を片付けた後、初めて教会に行きました。旦那と約束を守るため見学に行く心で姑が通っていた恵と真理教会の礼拝に参席しました。慣れてない足取りで教会に入った瞬間、案内した区域長が「いらっしやいませ。ようこそ、教会に初めて来られましたよね。」嬉しく歓迎してくれました。「人がこんなに多いのに私が始めて来たのはどう分かったのか？と珍しい心と負担の心がありました。新しく教会に来られた人になって当会長の牧師がわたしの名前を読んでくださってきれいなバラももらって、生徒達に大きい拍手で歓迎と祝福を受けました。何も知らない私はしばらくは教会が慣れなかったです。旦那があれこれ教えてくれましたが、ちょうど妊娠したから教会に行くのが面倒でした。私が生きる村の首区域長が熱心に関心を持って私に連絡してくれました。驚くことは教会で私をはじめ歓迎してくれた方でした。慣れてない村で私はその首区域長をよく頼っていました。

首区域長の関心と愛は良かったのですが、教会の礼拝と区域礼拝に参席するのは負担になりました。それで、首区域長の連絡を避けるときもありました。そうするうちに体内にいる子とわたしの健康のため態度を変えて熱心に礼拝に参席して、祈りも熱心になりました。神様の恵みの中で健康な子を出産しました。

母が急に病気が悪化され亡くなりました。母は結婚する前にちょっと教会に通っていたそうです。そんな母を積極的に伝道をしなかったのが後悔でした。母が亡

くなった後、種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は／束ねた穂を背負い／喜びの歌をうたいながら帰ってくる。

翌年に妹が新型インフルエンザに感染され、隔離された重症室で制止の境をさまようことになりました。病院では妹が生きる確立が40%ならないとしました。闘病の中で心臓麻痺になって危機を越えた事もありました。医師はもう一度心臓麻痺が来ると生きる希望がないと本当に前が見えなかったです。妹が眼を開けてしばらく気がついて「姉ちゃん、あちらに悪魔が見える。」「私を捕まえるため来たみたい。」「そんな話を聞いた時、どうすればいいのかわからなかったですが、すぐ、気を取り戻して妹の手を握って、「サタン！退きなさい。イエスキリストの名によって退きなさい！」と声をだして命令をして神様を仰ぎながら祈りました。

教会で牧師と伝道士、そして、区域聖徒達が妹の病気が治るように共に祈ってくださいました。神様が祈りに答えてくださいました。妹が奇跡的に命が助かりました。しきりに幻影と見られていた症状も病院を出た後、言葉で表現できないほどの神様の恵みで奇跡でした。ハレルヤ！妹はその後、結婚して息子と娘も産んでよく暮らしています。神様に感謝を捧げます。

娘が2歳になったときから私は二番目の子を妊娠したくて神様に祈りました。ところが妊娠はできなくて、上の子が5歳になった時、旦那が胃がんの診断を受けました。初期に発見して幸いでしたが、病院は旦那は若い歳なので転移される可能性があるから癌細胞だけ切除する手術をするより胃を切除する手術をするのがよいと言われて医師が言うとおりで旦那は3分の2の胃を切除する手術を受けるようになりました。

私達の夫婦はまず、早期がんの手術を受けたのを神様に感謝捧げました。続いて旦那に慰めと勇気を下さって手術をする医療職に知恵と恵を下さるのを願いながら切ない心で神様に祈りました。教会でも教役者達と多くの聖徒達が共に祈ってくださいました。神様の恵みで手術をよく終わりました。神様の意志の手を通して手術が良くできるように働いてくださいました。私達の夫婦はもっと神様を愛して委ねて神様に感謝する生活をするようになりました。

旦那が大分回復した翌年、私が待ちに待った二番目の

子を妊娠しました。私は神様の摂理と助けを深く悟って神様に感謝して賛美しました。もし、私が希望の通り早く妊娠したならば、子を産んで育つ中で旦那を介護したらとても大変だったと思います。旦那が手術を受けてある程度回復されて、わたしの心が安定され平安になった時

神様が私が願っていた二番目の子をプレゼントしてくれたのです。わたしを呼べ。わたしはあなたに答え、あなたの知らない隠された大いなることを告げ知らせる。(エレミヤ33:3) アーメン神様の慈しみと摂理に驚きました。ヨホワラパ、ヨホワイレの神様を賛美します。

一番上の子が10歳になって小学部になって、私は下の子を連れて幼児室でしばらく礼拝を捧げるようになりました。下の子が5歳になって幼稚部に入ると適応するあいだ子供と共に幼稚部で礼拝を捧げるように進められました。すると、幼稚部の伝道士と先生達が私に教師として奉仕するのを進めました。私は教会学校の奉仕を子供達を安全に見守って聖殿を掃除するのがと単純に考えました。ところが、伝道士と先生達が礼拝時間の前後に集まって熱心に祈りをして、頑張る聖書の教育と子供達のためのおやつなどを準備して主と教会を仕える姿を見ながら感動を受けました。それで新しい心と覚悟で奉仕し主と教会を仕えるようになりました。一人ひとり子供達の顔を覚えてその名前を覚えながら、礼拝時間に集中できなくてうるさい子供達が聖書を習い勉強する姿を見ながら私もたくさん習い悟って祈るようになりました。私が幼稚部の奉仕を始める当時に旦那も聖歌隊で奉仕し始めました。子供達も教会学校でイエス様と先生達に多く愛を受けながら礼拝を捧げるようになりました。子供達が小学部と幼児部の聖歌隊できれいに奉仕して健康で正しい姿で育つ姿を見ながら切に神様に感謝捧げるようになりました。

このように証を書きながら過去を振り返ってみるようになりました。そして、私がイエスキリストの中で神様の愛と神霊な福をたくさん受けた幸せな人と事実を再び深く悟るようになりました。この全ての恵を与えてくださった神様に感謝と賛美を捧げます。ハレルヤ！



【信仰コラム】

平和をつくり出す人

「平和をつくり出す人たちは、さいわいである、彼らは神の子と呼ばれるであろう」(マタイによる福音書5:9)

カインが弟アベルを妬み、殺した以降人類の歴史は戦いと殺人の話で点綴されて血で染み付きました。人間社会にはどこにも反目、対立、戦いがあります。平和のために励んで犠牲することはとても尊いことです。平和をつくり出す人は自分と隣人を幸いにする人です。平和をつくり出す人になるために私達がすべきことを調べてみましょう。

第一、他の人と平和になるために努力すべきです。人は性格が皆とどろりであり、絶えない欲望を持っていて複雑な利害関係でもつられるようになります。そのため時には悔しい事に遭ったり、苦しくて面倒くさい事に直面することもあります。なので平和のために努力して、また怒ることを自制しなければなりません。

「あなたがたは、できる限りすべての人と平和に過ごさなさい。愛する者たちよ。自分で復讐をしないで、むしろ、神の怒りに任せなさい。なぜなら、「主が言われる。復讐はわたしのすることである。わたし自身が報復する」と書いてあるからである。」と聖書に記録されています。

信仰の節を折ることではないと励んで平和を因らなければなりません。不義に加わることではないと励んで

平和を因らなければなりません。悔しいとしてもいちいち対応しようとせず、祈って神様の御手に任すべきです。平和のために若干の損害は耐えなければなりません。相手の立場で考えて不和の原因が自分にはないのか探してみる必要があります。すると理解心ができて寛容する心もでき、解決策も容易く探し出すようになります。主の面前意識を持つと寛大な心を持つことができます。このような努力を通じて他の人との関係で平和になると心の平和と共に多くの有益を得るでしょう。

第二、仲が悪くて反目の状態にいる隣人を平和にする仲裁者にならなければなりません。紛争する当事者を放っておくと反目と対立が長期化になり、激烈になりやすいです。ここに紛争をとりなして和解を仲裁する人が必要です。戦う人の中で仲裁するためには良い話だけを伝えなければなりません。知恵と努力、犠牲と忍耐が必要です。平和をつくり出すために誤りを犯した者に悔い改めるよう勧めて手伝ってあげるべきです。被害者が加害者を受け入れることができるよう激励して手伝ってあげるべきです。キリスト人は平和のための仲裁者として活躍するよう神様からお呼びを受けた人です。積極的に出て家庭で、隣の人々の中で、教会で平和を成す役割をすべきです。人々の心の中から誤解と憎みの雑草を抜き、理解と平和を植える人だという言葉聞くのを目標に

するのは優れた目標です。隣の人々の中で往来しながら平和を植える人は幸いです。

第三、神様と和らぐよう不信者に福音を述べ伝えなければなりません。

平和のために励むことの中で最も美しくて尊いことは福音を述べ伝えることです。神様と敵になった場にいる不信者が神様と和らぐよう導くことはとても良いことです。神様と和らがないとこの世に生きる間、心に誠な平和を享受できないだけではなく永遠な火の池で苦しめられます。神様と和らぐためには正しくならないといけません。誰でも悔い改めて福音を信じると正しくなり、正しくなった人は神様と和らぎます。そして、我が主イエスキリストによって神様と共に平和を享受する生活をします。福音を述べ伝えることは神様が与えてくださった光栄のある、聖なる任務です。平和をつくり出すことの中で最上最高の役です。

「平和をつくり出す人たちは、さいわいである、彼らは神の子と呼ばれるであろう」としました。神様の子になった者が将来に享受する豊かさや幸福、光栄はこの世のどんなことも比較することができません。イエスキリストを信じる人は全て神様の子であるが、特に平和をつくり出すことに励む人は「さすが神様の子のようだ。」という認定と称賛を受けます。

「テョヨンモク牧師先生の信仰コラム『緑の牧場、清い川』本の語り中」

私はとんなの霊的な状態であるのか



恵みと真理教会 チョヨンモク 牧師

神は人を非常に特別な存在で造られました。創世記には、次のように記録しました。「神はまた言われた、「われわれのかたちに、われわれにかたどって人を造り、これに海の魚と、空の鳥と、家畜と、地のすべてのものと、地のすべての這うものごとを治めさせよう。神は自分のかたちに人を創造された。すなわち、神のかたちに創造し、男と女とに創造された。神は彼らを祝福して言われた、「生めよ、ふえよ、地に満ちよ、地を従わせよ。また海の魚と、空の鳥と、地に動くすべての生き物とを治めよ」(創世記 1:26~28)。

神は人を神の形状と形に創造された。相互柔軟に使用される「形状」と「形」という言葉を繰り返し使用したのは、強調して表現します。神の性格と属性に関連して書かれたことを意味します。そして人は、神と人格的な交わりが可能であり、肉体も上品と機能と美しさを持ちよう造られました。神は人にすべての被造物を征服し支配力を与えました。すべての被造物を管理する権限と能力です。神は人に任せてくださった権限は、相対的なものであり、絶対的な権限ではありません。神は人に管理する責務の職務を与えられたのです。しかし、神の命令を逆らったので、墮落した人は、神の創造の世界を壊す主犯になりました。しもべがいつの間にか主人のふりをしようとしたからです。

創世記 2 章 7 節には「主なる神は土のちりで人を造り、命の息をその鼻に吹き入れられた。そこで人は生きた者となった」と記録しました。人は魂と肉体を持った特別な存在で造られました。ところが、アダムの罪によって、人の魂と肉体が死の支配を受けることになりました。魂は神の臨在と栄光から分離された状態になりました。肉体は病気になったり傷、または老衰して、死を迎えるようになりました。人は生涯を生きる間、神を喜ばせず、自己中心的に生きて死の後には、地獄の刑罰に処する運命になりました。これらの人生をあわれんで思われ贖いの道を与え、これを信じる者に聖霊で新しく生まれて、新しい命を得るし、永遠の命と神の子どもになる恵みを施しました。そして人々は二つの部類に分けられるようになりました。救われた人と救われていなかった人で分類されます。これを今日の本文では、もより詳細に分かれます。

生れながらの人、肉身に属する人、神霊な人という三部類に区分しました。この区分は、人の物理的な血統と家系、年齢、男女、ボディと外観、才能、知的能力、社会的な身分などの区分よりもはるかに重要です。これは霊的な状態による分類です。この時間、三部類の霊的な状態について説明します。

第一は、生れながらの人がいます。

コリント人への第一の手紙 2 章 14 節に「生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない」しました。生まれながらの人というのは親によって生まれたままの人です。イエス・キリストを信じないすべての人がこれに該当します。無神論者、多神論者、不可知論者、宗教的多元主義者、あらゆる疑似異端を網羅します。これらの霊的な状態について エペソ人への手紙に記録されるのを「さてあなたがたは、先には自分の罪過と罪とによって死んでいた者であって、かつてはそれらの中で、この世のならわしに従い、空中の權をもつ君、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている靈に従って、歩いていたのである。また、わたしたちもみな、かつては彼らの中にいて、肉の欲に従って日を過ごし、肉とその思いとの欲するままを行い、ほかの人々と同じく、生れながらの怒りの子であった」

(エペソ人への手紙 2:1~3) しました。「生れながらの人は、神の御霊の賜物を受けられない。それは彼には愚かなものだからである。また、御霊によって判断されるべきであるから、彼はそれを理解することができない」(コリント人への第一の手紙 2:14) しました。「聖霊の仕事」とは、イエス・キリストの贖いによる救いの恵みと真理を指します。生まれながらの人の特徴は、救いの恵みと真理である十字架の道を愚かに思って実現しません。その理由は、彼らが霊的に死んだ状態なので、霊的なことをわかっている能力がないからです。そしてすべての値を、霊的あるいは物質基準のみ評価します。「彼らは分派をつくる者、肉に属する者、御霊を持たない者たちである」(ユダの手紙 1:19) しました。生まれながらの人を指して「聖霊がない者」としました。イエス様を信じない人は、聖霊がない人です。聖書に啓示されたままのイエス様を信じない人も、聖霊がない人であり、生まれながらの人です。生まれながらの人は救いを受けることができません。

第二には、肉に属する者がいます。

本文に記録されることを「兄弟たちよ、わたしはあなたがたには、靈の人に對するようには話すことができず、むしろ、肉に属する者、すなわち、キリストにある幼な子に話すように話した。あなたがたに乳を飲ませて、堅い食物は与えなかった。食べる力が、まだあなたがたになかったからである。今になってもその力がない」(コリント人への第一の手紙 3:1,2) しました。イエス・キリストを信じて、聖霊で新しく生まれたが、まだ霊的に成熟していなかった信者を指して「肉に属する者」としました。「キリストにあつて子供たち」と表現しました。肉に属する信者の特徴十二種類があります。第一に、聖書中心の説教よりも世のことを扱う説教を好む。世俗的な表現と話を良いとします。第二に、非聖書の説教を分別せず、かえって崇拜します。礼拝の場所で人を倒すこと楽しんで行なう説教者は、自己が祈ると直ちに歯が金で変わる説教するなど疑似説教者の集会を見つけていきます。

第三に、聖書的な教えやアドバイスが自分が求めていることに抵触されると、反抗心を持っています。

第四に、分裂と争いを起こします。第五に、党を行った。教会のシステムと組織に加えて、私的な組織を作ります。第六に、嫉妬があります。第七、高慢です。第八、怒りをよくします。第九、試験によくなります。第十、信仰生活に起伏が激しいです。第十一、教会生活の中で不満があります。第十二、知りながら実践はしません。

第三には、神霊な人がいます。

本文に記録されるのを「兄弟たちよ、わたしはあなたがたには、靈の人に對するようには話すことができず、むしろ、肉に属する者、すなわち、キリストにある幼な子に話すように話した」(コリント人への第一の手紙 3:1) としました。霊的な人になる基本は、イエス・キリストを信じて聖霊に新しく生まれ変わることです。このような変化を受けた人は、霊的な人になるための目標を定めて、聖霊様の助けを求めながら、絶えず努力します。霊的な人の特徴七つあります。

第一に、礼拝と伝道と奉仕を楽しくします。第二に、主の栄光を覆うことがないよう行動します。ペテロの第一の手紙 4 章 11 節に「語る者は、神の御言を語る者にふさわしく語り、奉仕する者は、神から賜わる力による者にふさわしく奉仕すべきである。それは、すべてのことにおいてイエス・キリストによって、神があがめられるためである。榮光と力が世々限りなく、彼にあるように、アアメン」しました。

第三に、主を喜ばせる者なることを努めて生きていきます。神を喜ばせる基本的な態度は、神の言葉への信仰と従順です。そして、神の性格にふさわしく行動することです。「あなたがたは、以前はやみであったが、今は主にあつて光となっている。光の子らしく歩きなさい。光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせるものである。主に喜ばれるものがなんであるかをわきまえ知りなさい」(エペソ人への手紙 5:8-10) しました。

第四に、すべてのことを、聖書で分別して判断します。聖書は、聖徒たちがどのような対象を霊的に分別する神聖なツールです。霊的な信者は何が大きいかと問わず何が聖書にふさわしいかと尋ねられます。どちらの側に立つことが、私に有益なのかという問わずどちらの側に立つことが聖書にふさわしいかと尋ねられます。その教訓がどのように有名な人間の言葉と問わず、聖書にふさわしいかと尋ねられます。

第五に、何事でも聖霊の助けを求めて頼ります。第六に、苦難と迫害と試験を受けても変わらず、主を愛します。

第七に、天国を慕って、主の再臨を切に期待します。天国を企業に受けるものと、主の再臨を迎えることを慕う心に神霊な望みと喜びが一杯になります。